

## 論文番号 44

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Excess Incidence of Squamous Cell Esophageal Cancer among US Black Men: Role of Social Class and Other Risk Factors

米国黒人男性の過剰扁平上皮食道癌発症：社会階層と他の危険因子の役割

執筆者

Linda Morris Brown, Robert Hoover, Debra Silverman, Dalsu Baris, Richard Hayes, G Marie Swanson, Janet Schoenberg, Raymond Greenberg, Jonathan Liff, Ann Schwart, Mustafa, Dosemeci, Linda Pottern

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001;153:114-22

キーワード

飲酒、症例対照研究、食事、食道新生物、人種差、危険因子、社会階層

要旨

米国の黒人男性は白人男性より扁平上皮食道癌の発症率が高い。これには、社会階層がどの程度関連しているか、またそれが、どの程度アルコール、タバコ、食事、低収入とも関連しているかを明らかにするために、住民を対象とした症例対照研究を実施した。1986年から1989年にかけて、347例の食道癌症例（白人119例、黒人228例）、対照群1,354例（白人743例、黒人611例）を米国の3地域から選んだ。年齢は30-79歳であった。年収が1万ドル以下の群の2.5万ドル以上の群に対するオッズ比は、白人4.3倍、黒人8倍であった。低収入、中等度量以上の多量飲酒、喫煙、生野菜や果物の摂取量、等が扁平上皮食道癌の発症に関与し、過剰発症の人口寄与危険度は白人98%、黒人99%がそれらの要因により説明できた。社会階層による食道癌発症の相違にこれらの因子が関与していると思われ、予防に役立て得る可能性がある。